

坂井地区保護司会報



ひまわり

ひまわりは太陽に向かって強く伸びやかに花を開く。法務省提唱の「社会を明るくする運動」のシンボルでもある。非行や法を犯した人たちも、ひまわりのように太陽をしっかりとらえて明るく強い人間性を培って欲しい。

《発行人》坂井地区保護司会 会長 高橋 研一

社会を明るくする運動 坂井市推進大会

令和7年7月5日「いきいきプラザ霞の郷」において、「第75回社会を明るくする運動坂井市推進大会」が開催されました。

7月は、「社会を明るくする運動」～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～の強調月間であり、その皮切りとして毎年開催している大会です。

大会では、内閣総理大臣からのメッセージがVTRで紹介され、柳沢福井保護観察所長から新開副市長と佐藤市議会議長にメッセージ文書が伝達されました。

また、市内中学2年生を対象に募集した「社会を明るくする運動作文コンテスト」において厳正な審査の結果、選ばれた最優秀賞1点と優秀賞4点の表彰を行い、あわせて朗読を行いました。

特に最優秀賞の「みんなに優しい社会」と題した朗読では「再犯率」の高さに着目し、自分なりに分析して、誰もが「過ちを犯してもやり直せる社会」であってほしい、また社会とのつながりこそ更生には必要であり、そしてそれが私に少しでもできることがあれば関わっていきたくと力強く語っていました。強調月間のテーマである「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」にふさわしい発表に、参加者一同、決意を新たにしました。





「社会を明るくする運動」の理解を！

坂井地区保護司会
会長 高橋 研一

「社会を明るくする運動（社明運動）」ということばを聞いた時、皆さんはどのような運動を想像されますか。おそらく「ゴミを拾いましょう」とか「あいさつをしましょう」という運動と思う方がほとんどではないでしょうか。本来は、「犯罪や非行を防止し、罪を犯した人たちの立ち直りを支えていく」という全国的な運動のことです。その運動の中心となつて携わっている人達は、保護司や更生保護女性会、協力雇用主等です。

さて、7月は「社会を明るくする運動」強調月間として様々な活動が取り組まれています。先般、いきいきプラザ霞の郷において多数の市民の皆様のご参加をいただき「社会を明るくする運動 坂井市推進大会」が開催され、市長や市議会議長へ総理大臣からのメッセージ伝達、中学生の社明運動協賛作文コンテストの表彰式と作文の朗読が行われました。また、市内のショッピングセンター、ハピライン、学校等での社明運動啓発物品配布等の活動が行われています。さらに今年初めての取り組みとして、更生保護のシンボルカラー「黄色」で丸岡城のライトアップを七月一日から十日まで実施しました。

近年、犯罪件数は減少傾向にありますが再犯率が高くなっています。更生し社会復帰しようとしても、働く場所や住むところが無く社会から疎外され生活に困り、罪を再び犯してしまう...

市民の皆さん、社明運動の趣旨を理解し更生保護関係者とともに、犯罪・非行のない住みよい明るい社会づくりに取り組みましょう。



黄色い羽根



福井保護観察所
保護観察官
中村 美雪

令和六年度に金沢保護観察所から福井保護観察所へ異動し、本年四月から、坂井地区を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「社会を明るくする運動」といえば、その名称とともに「黄色い羽根」を見かけることが多いのではないのでしょうか。「黄色い羽根」の由来は、更生保護のシンボルマークであるひまわりの黄色と、刑期を終え出所した男性を温かく迎える妻を描いた映画「幸福の黄色いハンカチ」（昭和五十二年、山田洋次監督）から着想を得て、私の出身地でもある長崎地区保護司会が考案し、そして、第六十一回の本運動からシンボルマークとして全国的に活用されたものです。

現実映画のようにうまくいかず残念ながら再犯に至ってしまう場合もありますが、一方で、家族や地域に支えられ、自らの力で更生の道を歩む方も少なくはありません。それは一重に、保護司をはじめとした地域の人々のサポートや地域にお住まいの方々のおかげであることは言うまでもありません。今後も引き続き、更生保護に対して、皆様の温かい御助力を賜りますよう、お願い申し上げます。

犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ

『協力雇用主』を募集しています。

犯罪や非行をした人（刑務所出所者等）は、再び地域に帰ってきます。

これらの人たちが再犯や再非行に至らないためには、仕事に就き、職場に定着して、責任ある社会生活を送ることが重要です。再犯や再非行を防止するためには、協力雇用主の方の存在が不可欠です。

現在坂井市では24社が登録されています。

※協力雇用主の方々の不安を軽減するために、国の支援制度があります！

【連絡先】坂井地区保護司会
坂井地区協力雇用主会

〒919-0522 坂井市坂井町上新庄28-5-3
坂井健康センター2階

TEL.0776-43-1371 FAX.0776-43-1372

藍綬褒章を受章して



久光 蓮子

思いがけず、県政功労者表彰に続いて、光栄で身に余る藍綬褒章を頂きまして、心から感謝申し上げます。

保護司の任命から三十年、更女会員として三十年が過ぎました。保護司の方々をはじめ多くの方との出会い、そしてお力添えを頂き、皆さまに支えられての三十年でした。去る五月十四日法務省での伝達式、午後皇居で拝謁と緊張の中に喜びと感動を感じた夢の様な一日でした。

今後も明るい社会の為に微力ながら務めさせていただきます。

更生保護サポートセンター坂井

更生保護に関すること、犯罪予防、再犯防止、罪を犯して社会復帰した人やその家族等の困りごとの相談などお気軽に來訪・電話ください。

月曜日から金曜日（祝祭日は除く）午前10時から午後3時まで
企画調整保護司が常駐しています。

〒919-0522 坂井市坂井町上新庄28-5-3 坂井健康センター 2階
電話：0776-43-1371 FAX: 0776-43-1372
E-mail: kouseihogo-sakai@shore.ocn.ne.jp




編集後記

社会から犯罪をなくすため毎年中学二年生に、若い方々の考えや決意を作文を通して訴え続けて頂いています。

作文を通して、犯罪の原因が①自分自身②学校③家庭④地域社会等であり、「仲間や味方」やり直せる社会が必要と訴えており、心が打たれ、かつ頼もしく思います。

社会とのつながりを持ち続けることで、犯罪を減らすことが可能です。私達保護司も新たな犯罪や再犯を少しでも減らせるようがんばりたいと思います。

（島田）

退任保護司（敬称略）

ご苦勞様でした。

宮崎 美恵子（三国町）
齊藤 佳代子（春江町）

新任保護司（敬称略）

よろしく願います。

室田 真人（丸岡町）
林 栄治（三国町）

立ち直りのきっかけ



福井保護観察所
所長 柳 沢 真希子

保護観察所で犯罪や非行からの立ち直りを目指す人と向き合う中で、うまく社会に溶け込んでいく人には一つの共通点があることに気づきました。それは、「身近に彼らを大切に思ってくれる人がいる」ということです。心配して泣いてくれた親、去っていくことなく待っていてくれたパートナーや友達、信頼して仕事を任せてくれる上司、立ち直りを信じて寄り添ってくれる保護司などの存在に恵まれると、彼らは「この人には心配をかけたくない」「今の生活を失いたくない」という思いを胸に、大変なことがあっても踏みとどまれるようになります。

一方、こういう心境に至ることができない人は、孤独感を募らせて自暴自棄になったり、前向きに生きていくことを諦めたりしがちです。

やり直そうと努力している人は、近所の方が笑顔向け、挨拶をしてくださるだけでもほっとするものです。彼らの多くは、善意には善意で応えたいと思っています。どんな接し方をすれば彼らの希望となり、また、彼らの心を折ることになってしまうのか、一度思いを巡らせていただけないでしょうか。併せてこの機に、地域の中で彼らを支えてくださっている保護司の存在にも目を向け、御支援いただければ幸いです。



最優秀作文

坂井中学校二年 安倍 雪月

みんなに優しい社会



初め「社会を明るくする運動」について考えてみましたが、何も思い浮かびませんでした。犯罪や非行についてあまり深く考えたことがなく、私の中のイメージは、「悪いこと」ただそれだけだったからです。

そこで、犯罪や非行についてインターネットで調べてみました。すると二つのことが分かりました。一つ目は犯罪や非行をする理由です。原因は主に四つあり、自分自身の問題、学校の問題、家庭の問題、地域社会との問題があるそうです。私が思っていたよりも複雑で複合的だったのでとても衝撃的でした。二つ目は再犯率が高いということです。三人に一人が再び犯罪や非行をしており、出所後も犯罪者というレッテルを貼られ、社会的に孤立してしまう人が多いようです。調べてみて一番気になった再犯についてもう少し考えてみることにしました。

誰でも日常生活の中で失敗してしまうことはあると思います。窓ガラスを割ってしまったとか、宿題を忘れてしまったとか、些細な

ことから大きなことまで内容はさまざまです。しかし、ある日窓ガラスを割ってしまった人がもう一度窓ガラスを割ると断言はできないはずで、それと同じで犯罪者や非行者が、また同じことを繰り返すとは限らないと思います。けれど、現状では出所後も犯罪者というレッテルを貼られてしまい、再び犯罪をしている人がたくさんいます。

いろいろ調べた中で、犯罪をした人が社会に戻るための支援をする仕事をしている人の話がありました。その人には、大学生の時、自分が運転する車で事故を起こしてしまい、助手席に乗っていた高校からの親友が亡くなってしまったという過去がありました。そんな彼に元野球部のメンバーたちは「お前のやったことは許せないけれど、お前には生きていてほしい」と声をかけてくれたそうです。この記事を読んで私は心が温まりました。事故を起こしてしまった親友を亡くしてしまった、そんな時に味方でいてくれた元野球部のメンバーはとても心強かったのだ

はないかと思っています。その男性はある勉強会に参加したそうです。「社会とのつながりを持つことで、犯罪を犯さなくなるのではないか」という彼の意見に賛成する人もいましたが、その中で犯罪を犯してもやり直しができるなら犯罪が増えるのではという意見もあったそうです。それに対して私は、確かにそうかもしれないと思いますが、確実にそうかもしくはないと思います。けれど、犯罪を犯してもやり直せるからこそ減る犯罪もあるのではとも思いました。数分間このことについて考えてみました。が、やっぱり、「誰もがやり直せる社会」に私は賛成だと思いました。犯罪をした原因の一つに、一度まちがったことをしてしまい、自分は周囲とは違う人間なのではないか、悪い人たちとつるむようになったというものがありました。そういう人たちにもやり直せるというのは心の支えになるのではないかと思います。

このようなことから、再犯や再非行を防ぐには「仲間や味方」そして、「やり直せる社会」が必要なのではないかと思いました。私に犯罪や非行をした人の仲間や味方になるということは難しいかもしれません。しかし、クラスや学校、日常生活の中で私にできることを探して、実行していきたいと思っています。

社会を明るくする運動 作文コンテスト



佳作 二十点

春江中学校 原田 凜花さん

「おじいちゃんの話聞いて 気づいた事」

希望の二ノノが広がる未来

丸岡南中学校 谷田 夢乃さん

「僕たちができること」

丸岡中学校 中嶋 一路さん

「更生を見守る勇気」

三国中学校 山崎 瑛仁さん

「みんなに優しい社会」

坂井中学校 安倍 雪月さん

最優秀賞

「更生を見守る勇気」

三国中学校 山崎 瑛仁さん

「みんなに優しい社会」

坂井中学校 安倍 雪月さん

応募総数 七百八十八点
(坂井市内中学校二年生)

各地区の社会を明るくする運動

三国町



- 6/5 ひまわり教室 三国中学校
- 7/2 あいさつ運動 三国中学校
- 7/5 啓発活動 ショッピングセンター

丸岡町



- 7/5 啓発活動 ショッピングセンター
- 7/8 あいさつ運動 丸岡中、丸岡南中学校

春江町



- 7/5 啓発活動 ショッピングセンター
- 7/18 あいさつ運動 春江中学校

坂井町



- 7/8 あいさつ運動 坂井中学校
- 7/9 更生保護教室 木部小学校
- 7/11 啓発活動 丸岡駅